

# 上宮寺通信

第八十七号

## 浄土の音を奏でる雅楽

11月21日から28日まで本山・東本願寺では報恩講がつとまります。期間中、23日と26日をのぞいて一日一座、雅楽が入る法要があります。

雅楽というと神社の音楽とのイメージが強い方も多いかもしれませんが、しかし、その歴史をみると仏教とも非常にかかわりの深い音楽でもあります。

雅楽は仏教伝来と同じ頃に日本に伝わったといわれています。儀式用の音楽でもあった雅楽は、古くは東大寺の大仏開眼供養の法要に演奏されたという記録もあります。

そんな雅楽ですが、特にその音色から極楽浄土の音楽としてイメージされてきました。

親鸞聖人は「宝林宝樹微妙音 自然清和の伎楽にて 哀婉雅亮 すぐれたり 清浄楽を帰命せよ」という和讃を作られています。

この和讃は「宝林宝樹(浄土)の音はどれもが自然に調和のとれたすばらしい音で、まるで伎楽(雅楽)のようだ。その音には憐みもあれば、澄んだ音もある。正しく聞こえる音もあれば 冴えわたる音もある。浄土の音はまことにすばらしい」という意味です。浄土の音はまるで伎楽(雅楽)のようなものだとはいわれているのです。

また、「清風宝樹をふくときは

いつつの音声いだしつつ 宮商(きゆうしょう)和して自然なり 清浄勲を礼すべし」という和讃も作られています。

浄土の音は「いつつの音声」をだすといわれます。これは「宮商角徴羽」という雅楽に用いられる音階でドレミのようなものです。

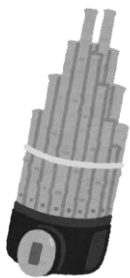
そして「宮」と「商」は合わない不協和音とされています。その「宮」と「商」が「和して自然なり」。合わない音が自然な心地よい音として流れているのが浄土であるといわれるのです。

このような和讃をしてみると、親鸞聖人は雅楽に理解が深かったのではないかと思えてきます。

特に「宮商和して自然なり」という和讃。雅楽は曲の中で箏と龍笛が半音ずれるというところがよくあります。これが雅楽の特徴でもあるのですが、音楽的にはよくないことが逆に雅楽らしさを出しているのです。

日常生活の中でも意見が合わない人が回りにいます。その人たちが排除していくのではなく、お互いに認め合っている世界が大切である。合わないものが合う世界、その世界こそ阿弥陀仏の願う世界です。

その仏の願いを雅楽という音楽は奏でているのです。



◆行事案内

報恩講

11月8日(土)午前10時

法要 引き続き 法話

法話 伊奈祐諦 師

(西尾市安楽寺前任職)

※午前みの法要です。持ち帰り用の軽食をご用意いたします。

本山報恩講団体参拝(日帰り)

11月27日(木)

東本願寺報恩講(逮夜)参拝、  
宇治平等院 見学 他

修正会

1月1日(元旦・木)

午後2時

年の初めにぜひお寺にお参りください。

◆話題あれこれ

○11月8日(土)は上宮寺の報恩講をおつとめいたしました。皆様のご参詣をお待ちしております。

○さる10月1日に、アマノ芸術創造センターで行いました「舞樂と管絃の会」に、上宮寺のご門徒さんもたくさんお越しいただきありがとうございました。琵琶、三鼓という慣れない楽器を担当したのですが、無事に終わってホッとしています。

東本願寺 報恩講

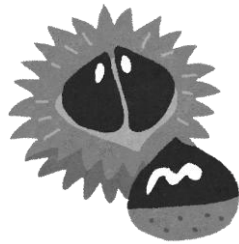
11月21日(金) ~ 28日(金)

名古屋別院 報恩講

12月13日(土) ~ 18日(木)

○今月は上宮寺の報恩講のほか、16日に名古屋別院の定例会話、21日からは京都・東本願寺の報恩講への出仕とバタバタ。

そして来月になれば名古屋別院の報恩講があります。あつという間に今年も終わりということになりそうです。皆様も体調には十分気をつけていただいて、せわしいこの時期をお過ごしください。



○ホームページ、公式LINEもよろしく願います。



ホームページ



公式LINE

【雑感】

プロ野球ファンとして、一年で一番そわそわしてしまう日がドラフト会議の日です。今年は目玉となる選手が少ない感じがありましたが、こんな年こそ将来のプロ野球を背負って立つような選手がうまれるというもの。中日ドラゴンズは課題となっている投手陣の補強として、大学生No.1右腕の中西投手を単独1位指名。2位でも大学生投手の櫻井投手を指名しました。近年、獲得した大学生投手が期待したような活躍をしていますが、その流れを断ち切ってドラゴンズを支える投手となってほしいものです。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金一丁目十九番十五号

☎052-871-0547